日暮里・谷中 散策マップ

夕やけだんだんと谷中ぎんざ

凡例

- 寺町ぶらり散歩コース
- 博物館ぐるっと巡りコース
- ⑦本行寺 ⑪善性寺 コース内の主な散策スポット
- 観光案内標識
- 観光案内所
- 商店街
- 児童遊園
- 公園
- 遊び場・広場
- (桜) 花見スポット
- トイレ

交通アクセスマップ

荒川区 産業経済部 観光振興課
TEL：03-3802-3111（代）
荒川区ホームページ https://www.city.arakawa.tokyo.jp/

台東区 文化産業観光部 観光課
TEL：03-5246-1111（代）
台東区公式観光情報サイト https://t-navi.city.taito.lg.jp/

令和6年1月発行 根津一丁目

史跡が保管されている寺院境内に入る場合は、必ず管理者の許可を得てください。 掲載されている内容、名称等はすべて発行当時のものです。現在とは異なる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

おすすめな散策スポット 寺町ぶらり 散歩コース

1 下御隠殿橋（トレインミュージアム）

この橋の中程には、トレインミュージアムと呼ばれるバルコニーがあります。山手線・京成線など、14本の線路の上を、新幹線・特急列車が絶え間なく行き交う姿を見ることができます。

■荒川区西日暮里2-58

2 本行寺

月見寺とも呼ばれ、風流人に好まれ、小林一茶や種田山頭火などの句碑があります。また、儒学者・市河寛斎、書道家・市河米庵、幕末～明治時代に活躍した永井尚志の墓があります。

■荒川区西日暮里3-1-3

3 経王寺

慶応4年(1868)の上野戦争に敗れた彰義隊士がここへ隠れたため、新政府軍の攻撃を受けました。山門にはその弾痕が残っています。

■荒川区西日暮里3-2-6

4 富士見坂

都心にいくつかある富士見坂のうち、最近まで地上から富士山が見える坂でした。平成16年には「関東の富士見百景」にも選ばれました。

■荒川区西日暮里3-7付近

5 浄光寺

高台に位置し、展望が開け、雪見に適したことから、雪見寺とも呼ばれていました。江戸六地蔵の一つであり、元禄4年(1691)に開眼された銅造地蔵菩薩立像があります。

■荒川区西日暮里3-4-3

6 諏方神社

建御名方命（たけみなかたのみこと）を祀る神社で、長野県にある諏訪大社の分社です。元久2年(1205)に創建され、日暮里・谷中の総鎮守として広く信仰を集めています。

■荒川区西日暮里3-4-8

7 西日暮里公園

街の喧騒も忘れるほど静かな公園です。この辺りの台地は眺めが良いことから、江戸時代から人々の憩いの場として親しまれています。

■荒川区西日暮里3-5-5

8 青雲寺

花見寺とも呼ばれ、谷中七福神の一つ恵比寿神があります。本堂脇には「南総里見八犬伝」の筆者、滝沢馬琴の筆塚・硯塚があります。

■荒川区西日暮里3-6-4

9 修性院

青雲寺とともに花見寺と呼ばれ、歌川広重の名所江戸百景にも描かれています。谷中七福神の一つ布袋尊があり、寺の塀には、四季をモチーフにした布袋尊が描かれています。

■荒川区西日暮里3-7-12

10 夕やけだんだんと谷中ぎんざ

美しい夕焼けを眺めることができる夕やけだんだんは、一般公募して命名されました。この階段を下ると、レトロな雰囲気が漂う谷中銀座商店街があり、下町の活気と人情を味わえます。
また、東京芸術大学生制作のネコのオブジェ7体(木製彫刻)が来街者の目を楽しませています。

■荒川区西日暮里3丁目～台東区谷中3丁目付近

11 岡倉天心記念公園

日本近代美術の先覚者岡倉天心の旧居跡が、現在岡倉天心記念公園となっています。園内の六角堂には、平櫛田中作の天心坐像が安置されています。

■台東区谷中5-7-10

12 大圓寺

瘡守稲荷は江戸中期より祀られ、疱瘡、皮膚病を治すご利益で知られ、大勢の参詣人がありました。江戸の三美人と謳われた茶屋「鍵屋」の看板娘、お仙と彼女を描いた浮世絵師鈴木春信の碑が境内にあります。毎年10月には「谷中菊まつり」が行われます。

■台東区谷中3-1-2

13 全生庵

山岡鉄舟が建立した寺で、落語家の三遊亭圓朝の墓所があります。毎年8月には、圓朝を偲び、「圓朝まつり」が行われ、寄席の他、円山応挙らの幽霊画も公開されます。

■台東区谷中5-4-7

14 三崎坂

この坂の名は、駒込、田端、谷中の3つの高台に由来すると言われています。この坂は、「首ふり坂」の別名があり、かつて付近に住む僧侶が首を振りながらこの坂を歩いたことから、この名が付いたと言われています。

■台東区谷中2丁目と3丁目の間から谷中4丁目と5丁目の間

15 観音寺の築地塀

江戸時代に築造された土塀です。土と瓦を交互に積み重ねて作った土塀に屋根瓦をふいた珍しいものです。

■ 台東区谷中5-8-28

16 御殿坂

以前は、谷中の上り口に当たる急坂を「御殿坂」と呼びましたが、日暮里駅やJRの路線ができた際に坂の大半が消滅したため、その名残である坂の上の部分をこう呼ぶようになりました。その他由来に、俗に御隠殿(寛永寺輪王寺宮の隠所)がこの先にあったからとも言われていますが、根拠は定かではありません。

■ＪＲ日暮里駅北口から西日暮里3丁目と谷中7丁目の間

おすすめな散策スポット 博物館ぐるっと 巡りコース

1 善性寺

寛文4年(1664)に六代将軍徳川家宣の生母長昌院が葬られて以来、将軍家ゆかりの寺となりました。名横綱双葉山や政治家石橋湛山の墓、安土桃山時代の作と伝わる「不二大黒天像」もあります。

■荒川区東日暮里5-41-14

2 天王寺

天王寺は鎌倉時代の創建と言われ、都内有数の古寺です。江戸時代には、現代の宝くじのルーツ「富突（とみつき）」を興行し、江戸庶民に人気がありました。

■台東区谷中7-14-8

3 大名時計博物館

江戸時代の大名が実際に使った櫓（やぐら）時計、台時計、枕時計などの和時計を展示する日本で唯一の博物館です。大名お抱え御時計師たちの高度な設計工作技術をつぶさに見学できます。

■台東区谷中2-1-27　☎03-3821-6913

4 三浦坂

三浦志摩守下屋敷の前で、根津方面へ下る坂だったため「三浦坂」と呼ばれていました。

■台東区谷中1丁目と2丁目の間

5 下町風俗資料館付設展示場※（旧吉田屋酒店）

明治時代の酒屋の建物を移築したものです。館内には、当時実際に使われていた秤、樽、枡などが展示され、区指定の有形民俗文化財となっています。

■台東区上野桜木2-10-6　☎03-3823-4408
開館時間/9：30～16：30（入館は16：00まで）
休館日/月曜日、年末年始他

6 浄名院

寛文6年（1666）に建立されたこの寺院には、約2万体を数える石の地蔵が並んでいます。旧暦の8月15日には「へちま供養」が行われます。

■台東区上野桜木2-6-4

7 ねぎし三平堂

昭和の爆笑王と呼ばれた落語家・初代林家三平師匠の記念館で、思い出の品々が展示されています。

■台東区根岸2-10-12　☎03-3873-0760

8 書道博物館

洋画家であり書家でもあった中村不折の収集した、中国及び日本の書道に関する古美術品、考古出土品、重要文化財や重要美術品などが展示されています。

■台東区根岸2-10-4　☎03-3872-2645
開館時間/9：30～16：30（入館は16：00まで）
入館料/一般500円、小・中・高校生250円
休館日/月曜日、年末年始、展示替期間等

9 子規庵

晩年の正岡子規が故郷松山より母と妹を呼び寄せ、病間兼書斎と句会歌会の場として、多くの友人、門弟に支えられながら俳句や短歌の革新に命を燃やした家です。

■台東区根岸2-5-11　☎03-3876-8218

10 日暮里南公園

建設省（現・国土交通省）大臣表彰「小さなふれあい広場三十選」の「手作り郷土（ふるさと）賞」を受賞した大きな噴水広場があります。園内には常緑樹や四季折々の草花があふれ、春にはたくさんの桜が咲きます。

■荒川区東日暮里5-19-1

11 夕焼け小焼けの記念碑（第二日暮里小学校）

古くから歌い続けられている童謡「夕焼け小焼け」は、作詞者・中村雨紅が、ここ第二日暮里小学校に新米教師として赴任し、翌年第三日暮里小学校へ転勤した後の大正8年（1919）に作られました。

■荒川区東日暮里5-2-1

12 日暮里繊維街

両側約1kmにわたって、生地織物の店が立ち並び、生地織物に関するものなら何でも揃います。日暮里繊維街の名を全国にアピールするため、ふらっとにっぽりにて日暮里ファッションデザインコンテストが開催されています。

■荒川区東日暮里3～6丁目付近

日暮里・谷中周辺の 年間イベント情報

1月1～10日	谷中七福神詣
5月第2週の土・日	元三島神社例大祭
8月1～31日	谷中圓朝まつり（全生庵）
8月最終週の土・日	諏方神社例大祭
9月上旬～10月上旬（旧暦8月15日）	へちま供養（浄名院）
10月上旬	谷中まつり
	谷中菊まつり（大圓寺）
10月上旬～中旬	芸工展
11月中旬	日暮里ファッションデザインコンテスト

※令和７年３月より「したまちミュージアム付設展示場」

日暮里の由来

日暮里はかつて新堀（にいほり）と呼ばれていましたが、風光明媚な場所で、江戸時代には多くの文人達に好まれ、浮世絵や文学作品の題材にもされました。日が暮れるまで過ごしても飽きない里という意味合いから、「日暮里（日暮らしの里）」の字を当てたと言われています。
現在では、西側地域には寺社仏閣が多く残され、東側地域には生地織物の店が立ち並び、新旧の文化が感じられます。

谷中の由来

谷中という地名は江戸時代からあり、当時の上野台と本郷台の谷間に位置していることにちなみ、下谷に対してつけられたと言われています。
寛永寺の創建に伴う寺院の建立や江戸幕府の政策により神田付近から多くの寺院が移転し、寺町が形成され発展してきました。震災や戦災の影響が比較的少なかったため、今でも昔ながらの街並みや建造物などが多く残されています。

博物館等の開館時間については各施設にお問合せください。